

平成19年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	88	学校名	県立下館工業高等学校				課程	全日制			学校長名	黒田俊二				
教頭名	西田務									事務(室)長名	鈴木敏範					
教職員数	教諭	47	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	4	実習教諭, 実習講師, 実習助手	11	事務職員	4	技術職員等	2	計	74
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	機械科		80	0	71	1	76	0	0	0	227	1	6			
	電気科		39	1	38	1	39	0	0	0	116	2	3			
	建設工学科		28	8	30	7	33	6	0	0	91	21	3			
電子科		76	4	71	6	69	11	0	0	216	21	6				

2 目指す学校像

- 1 心身ともに健康で、互いを尊重する豊かな人間性を培い、次世代を担っていく人材を育成する学校。
- 2 工業に関する知識・技術を身に付け、堅実な職業観を持った産業の発展に寄与する人材を育成する学校。
- 3 生徒の希望する進路の実現を図ることにより、地域から信頼される進学も就職も可能な選択肢の広い学校。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	大学進学希望者、就職希望者ともに各教科・科目の基礎学力を更に高める必要がある。また、工業科の実習やものづくりを通して技能・技術の習得が必要である。	生徒の興味関心を高める授業や個別指導により学力向上を図る。
進路指導	過半数が進学希望であり、その半数は4年生大学である。就職を希望する生徒は、主に技能・技術職の分野へ確実に就職している。	多様な進路希望に対応できる指導体制の充実を目指す。確かな学力と技能・技術を評価されての進路実現を図る。
生徒指導	服装等の校則違反者は全体的に減少傾向であるが、日常生活におけるマナーの大切さなどの意識をしっかりと持てるよう呼びかける必要がある。	全職員による根本的な指導により生徒の意識改革を図る。
特別活動	運動部中心に活発な活動を展開している。毎年いくつかの部で全国・関東大会に出場していて、公立学校の中では総合的に上位の成績を上げている。	特色ある学校づくりの観点から工業高校特有の活動等の活性化に取り組む。

4 中期的目標

- 1 学力の向上を図るために、授業等の工夫・改善に努め、生徒一人一人の学力向上に努める。
- 2 専門性を高めるために、専門的な知識・技術の定着を図るとともに、資格取得の実績に確実な伸長を図る。
- 3 希望進路を実現するために、生徒の能力や適性等に応じた進路指導体制の充実を図り、着実に実績を伸ばす。
- 4 明るく真っ直ぐな生徒を育むために、さわやかマナーアップ運動の充実に努め、マナーを心得た態度や行動が自然ととれるようにする。
- 5 学校生活の満足度を高めるために、特別活動等の充実に努めるとともに、安心・安全な環境づくりを進める。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
基礎・基本の徹底と個別指導による学力の向上を目指す。	① 授業等の工夫・改善により、学力向上に努める。各教科ごとに生徒一人一人の的確な学力診断を行い、それに応じた指導を試みる。
資格取得実績の確実な伸長を図る。	② 資格取得で県内トップを目指すことにより、ジュニアマイスターゴールドの誕生を目指す。
進路指導システムの構築による希望進路の達成を図る。	③ 生徒の多様な希望進路に対応できる3年間の進路指導マネジメントシステムを構築し、第1希望の合格率・公務員の合格率アップ、大学進学への拡充を目指す。
さわやかマナーアップ運動の推進と道徳教育の定着を図り、心の教育を充実させる。	④ マナーアップ運動の推進と心の教育の充実のために、関係部署が連携を密にするとともに全職員で取り組む体制を確立する。
特別活動の充実と安心・安全な環境づくりを目指す。	⑤ 特別活動の充実を図るために、生徒の活躍できる場を広げる。また、各種の催しを通して地域に情報を発信する。 ⑥ 学校の教育活動への理解を深めるために、家庭・地域との連携を密にする。 ⑦ 各種の安全指導や安全管理、不審者対策等を充実して事故の未然防止に努め事故発生ゼロを目指す。